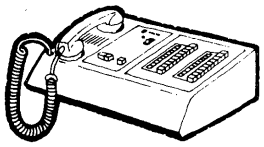
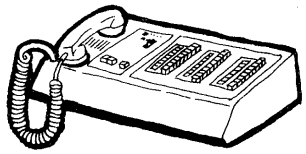
東芝インターホン、システムテレホン
取扱説明書

MO20C , MO30C





目　　次

各部のなまえと大きさ……1
特にご注意を……1
組み合わせて使用できる機器……1
取り付けかた……3
親機の端子配列について……4
呼出先表示カードの使いかた……4
組み合わせ接続例……5
呼び出し音量の調整……12
使いかた……12
ご注意とお願い……16
お手入れのしかた……16
修理サービス……16
特　長……17
規　格……17

工事店様へ

工事が終了しましたらこの取扱説明書は必ずお客様へお渡しください。

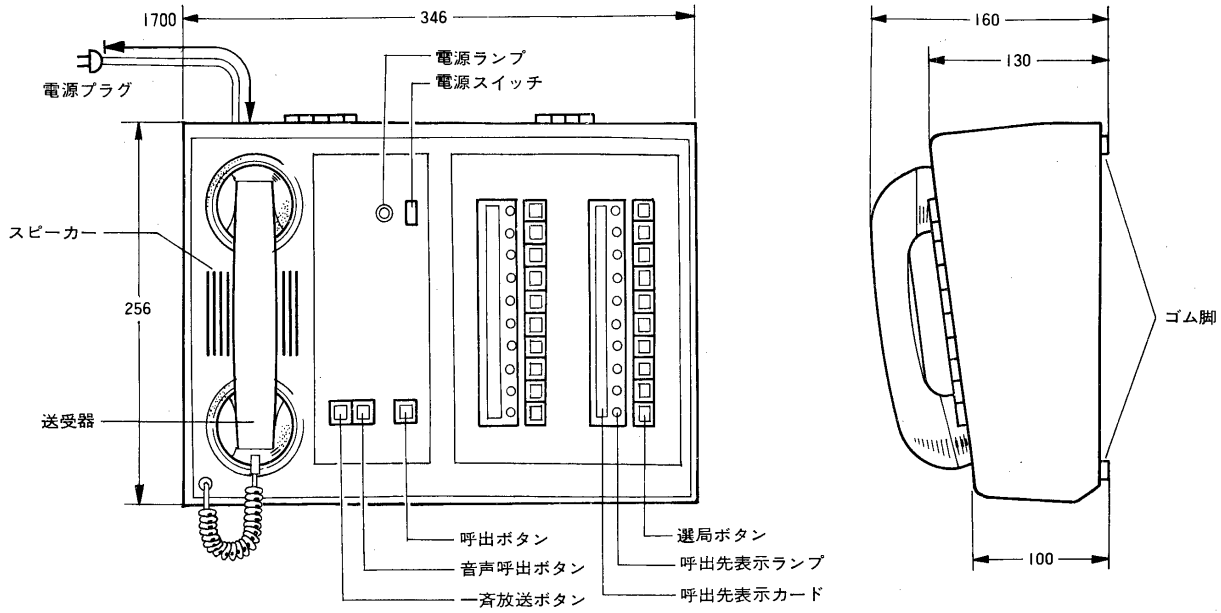
お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

＜生産完了 2004年01月01日＞

このたびは東芝インターホン、システムテレホンをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。お求めのシステムテレホンを正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

各部のなまえと大きさ（単位：mm）

〔図はMO20Cを示します〕〔MO30Cの大きさはMO20Cと同じです〕



特にご注意を

- 本体をあけるときは必ず、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源プラグは必ずAC100V のコンセントに差し込んでください。

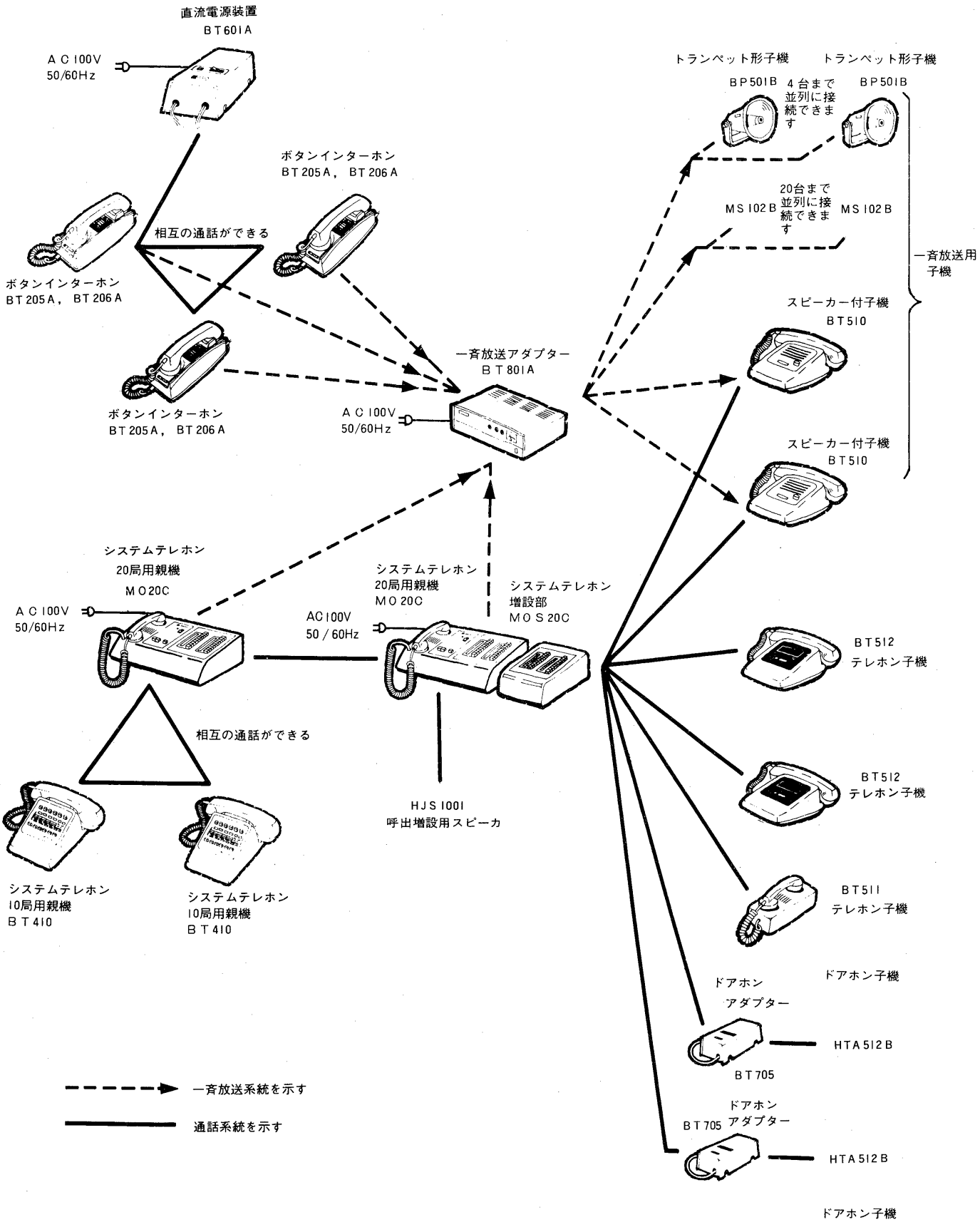
組み合わせて使用できる機器

- システムテレホン10局用親機……BT410
- システムテレホン20局用増設部……MOS20C
- システムテレホンスピーカー付子機……BT510
- 壁掛形親子式テレホン子機……BT511
- 卓上形親子式テレホン子機……BT512
- ドアホンアダプター……BT705
- ドアホン子機……HTA512B
- 一斉放送アダプター……BT801A
- 呼出増設用スピーカ……HJS1001

＜生産完了 2004年01月01日＞
MO20C (2／18)

■構成図

ＭＯ20Ｃに各機器を組み合わせますと、つぎのようにな構成になリます



ドアホンアダプターは３台まで接続できます
ドアホン子機(HTA512B)はドアホンアダプターに１台接続できます。

取り付けかた

■卓上に置いてお使いになるとき

送受器が左側へくるように置いてください。

■壁に取り付けてお使いになるとき

別売りの壁掛金具「ＭＫ20Ｃ」をお求めのうえ壁面に取り付けてください

①本体裏面についているゴム脚と増設金具をはずしてください。

②壁掛アダプター（MK20Cに含む）を本体裏面両側に付属ねじ（なべねじM3×6㎜プラマイ）４本で取り付けてください。

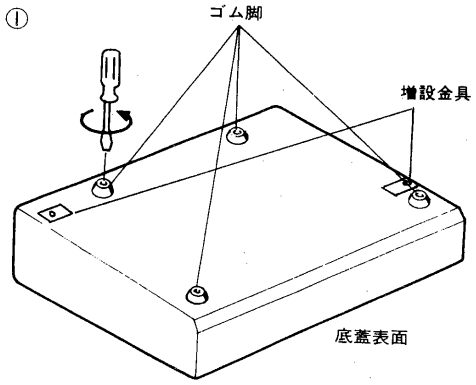
③本体表面の送受器上部にあいている角穴にハンガー（MK20Cに含む）を入れてください。

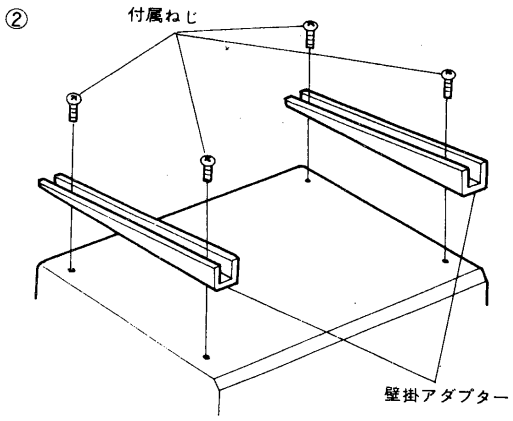
④壁掛金具（別売りMK20C）を付属の木ねじ（丸さら木ねじφ3.8×20㎜プラマイ）２本で壁に取り付けてください。

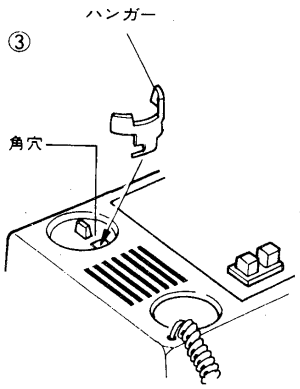
⑤本体の底蓋の引掛穴に壁掛金具のつめを入れ。

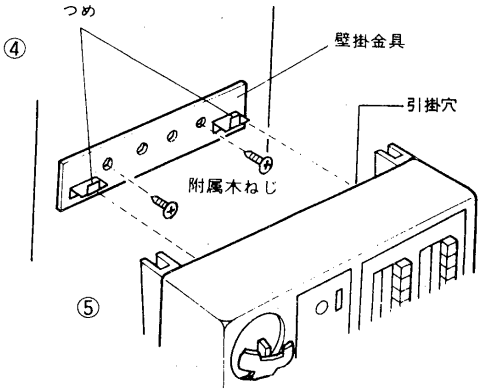
⑥下方へ引いてください。

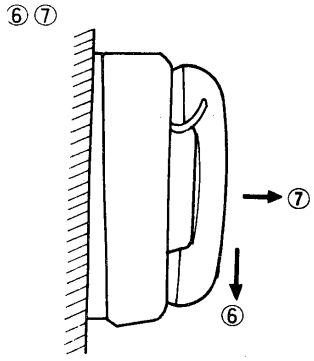
⑦正しく取り付けられたかを、手前に引いてお確かめください。（手前に引いてはずれなければ取付完了です）











■３個用、４個用スイッチボックスに取り付けてお使いになるとき

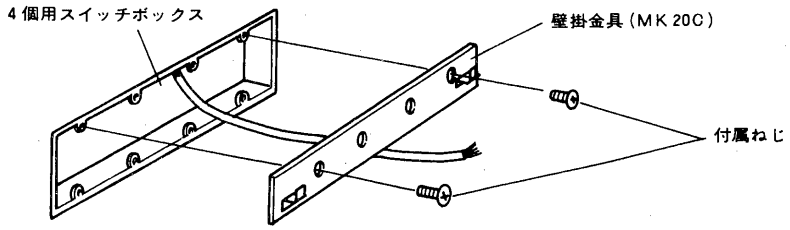
別売りの壁掛金具「ＭＫ20Ｃ」をお求めのうえご使用ください

①～③は前項の壁に取り付けてお使いになるときと同じです。

④壁掛金具（別売りMK20C）を付属ねじ（さら小ねじＭ４×30㎜プラマイ）２本で、スイッチボックスに取り付けてください。

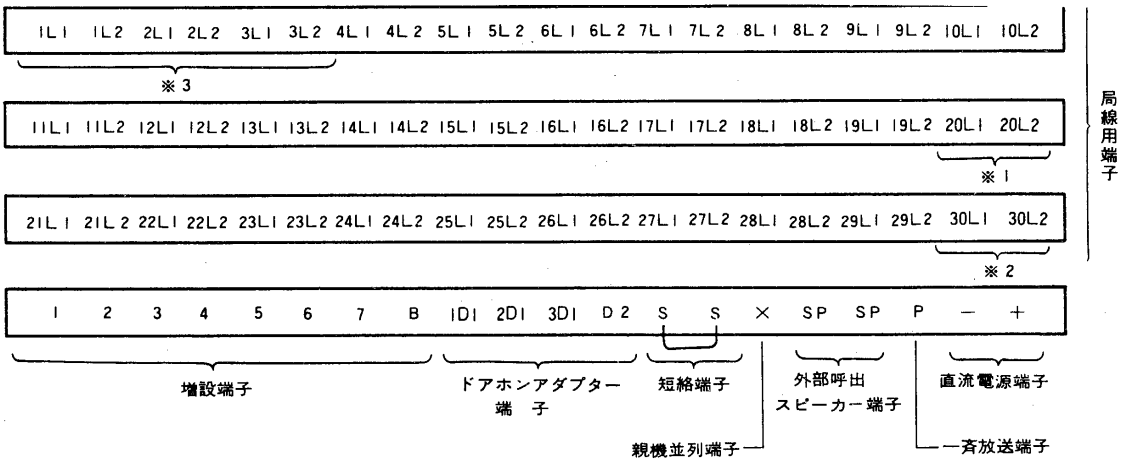
⑤以後は、壁に取り付けてお使いになるときの手順と同じです。

〔例〕４個用スイッチボックス



＜生産完了 2004年01月01日＞
MO20C (4/18)

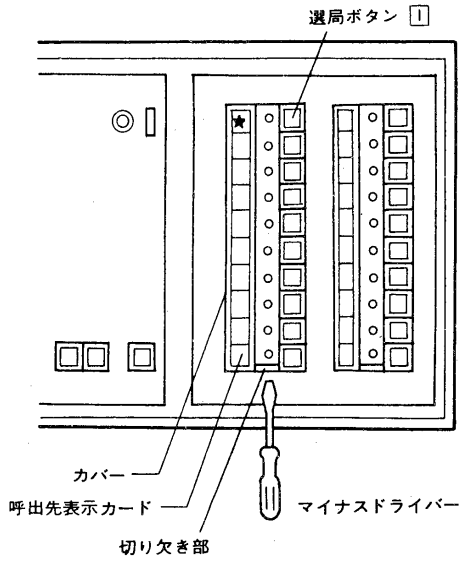
親機の端子配列について



- ●1L1 ～ 30L1　局線用端子　：テレホン子機ＢＴ511、ＢＴ512、スピーカー付子機ＢＴ510および通話する親機と接続します。
- ●1～7, B　増設端子　：MOS20Cを増設するときに親機と増設部を接続します。
- ●1D1～3D1, D2　ドアホンアダプター端子
  ：ドアホン子機(HTA512B)を使用するときにドアホンアダプター(BT705)と接続します。
- ●S, S　短絡端子　：親機２台を並列使用のとき親機どおしで通話する場合に短絡します。それ以外の場合は除きます。
- ●X　親機並列端子：親機２台を並列使用のとき接続します。
- ●SP, SP　外部呼出スピーカー端子
  ：親機以外に呼出音を鳴らすときに呼出増設用スピーカ(HJS1001)を接続します。
- ●P　一斉放送端子：一斉放送をする場合、一斉放送アダプター（BT801A）と接続します。
- ●－　直流電源端子：(－)端子は、親機どおしの(－)端子と一斉放送アダプターの(－)端子と接続します。
- ●＋　直流電源端子：システムテレホン10局用親機（BT410）を接続するときに、(＋)端子と接続します。

※１　MO20Cの場合、親機並列使用のとき親機間の専用通話回線に使用します。
※２　MO30Cの場合、親機並列使用のとき親機間の専用通話回線に使用します。
※３　ドアホンアダプター（BT705）を使用するときは、1L1、2L1、3L1の回線を使用します。

呼出先表示カードの使いかた



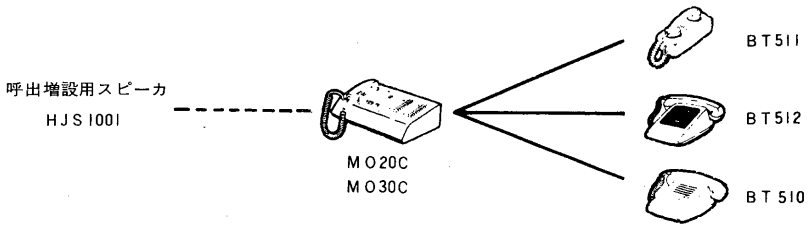
- ●図の切り欠き部分にマイナスドライバーを入れてカバーをはずします。
- ●呼出先表示カードに選局ボタンの回路に接続されている相手を記入します。たとえば選局ボタン 1 を押しますと、端子箱の 1L1 1L2 に接続されている相手とつながります。
  その相手を上図★印の欄に記入します。
  選局ボタンの数字は端子部の局線用端子の頭数字に対応しています。
  図の★印個所が「１」で最下部が「10」です。２列目最上部が「11」で最下部が「20」です。
- ●記入後は呼出先表示カードとカバーをもとのように入れてください。

＜生産完了 2004年01月01日＞
MO20C (5／18)

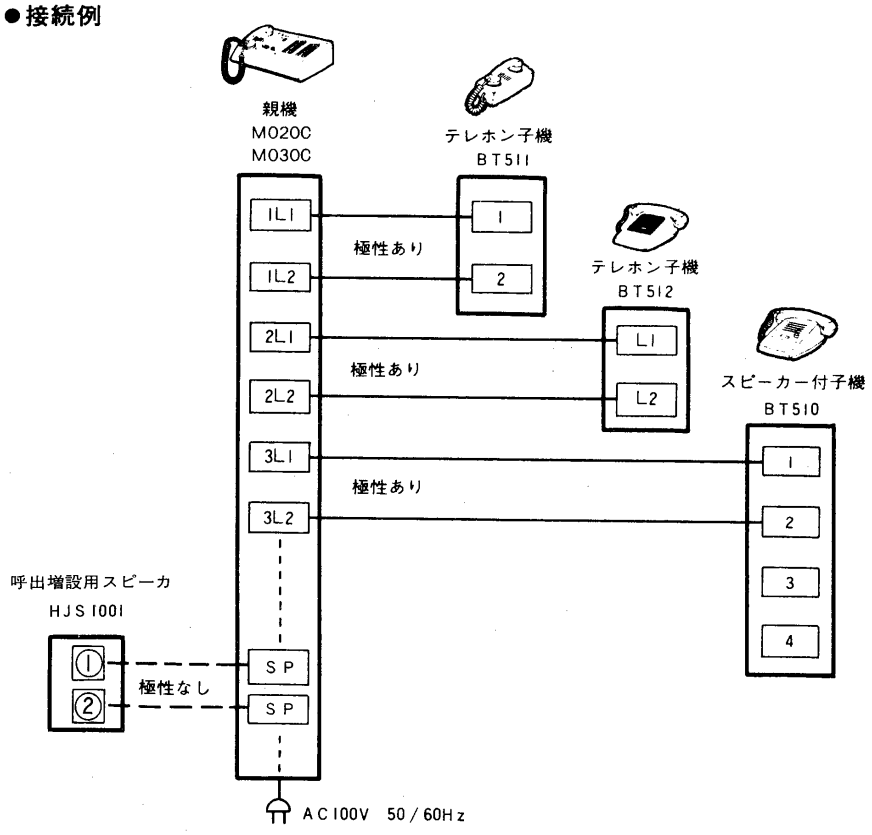
組み合わせ接続例

■親子式に接続するとき

●通話網



●接続例

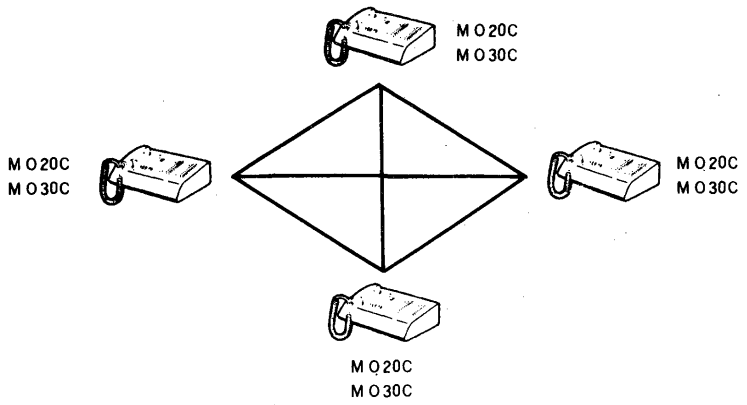


- 親機の端子配列は4ページをご覧ください。
- 親子式でご使用になるときMO20Cは20台、MO30Cは30台までの子機を接続できます。
- 親機L1を子機の [1] あるいは [L1] に、親機のL2を子機の [2] あるいは [L2] に接続します。
- 親機と子機の接続は2線ですが、極性がありますので必ず上図のように接続してください。
- 配線工事のとき線種の選択・距離については、17ページの規格欄をご覧ください。

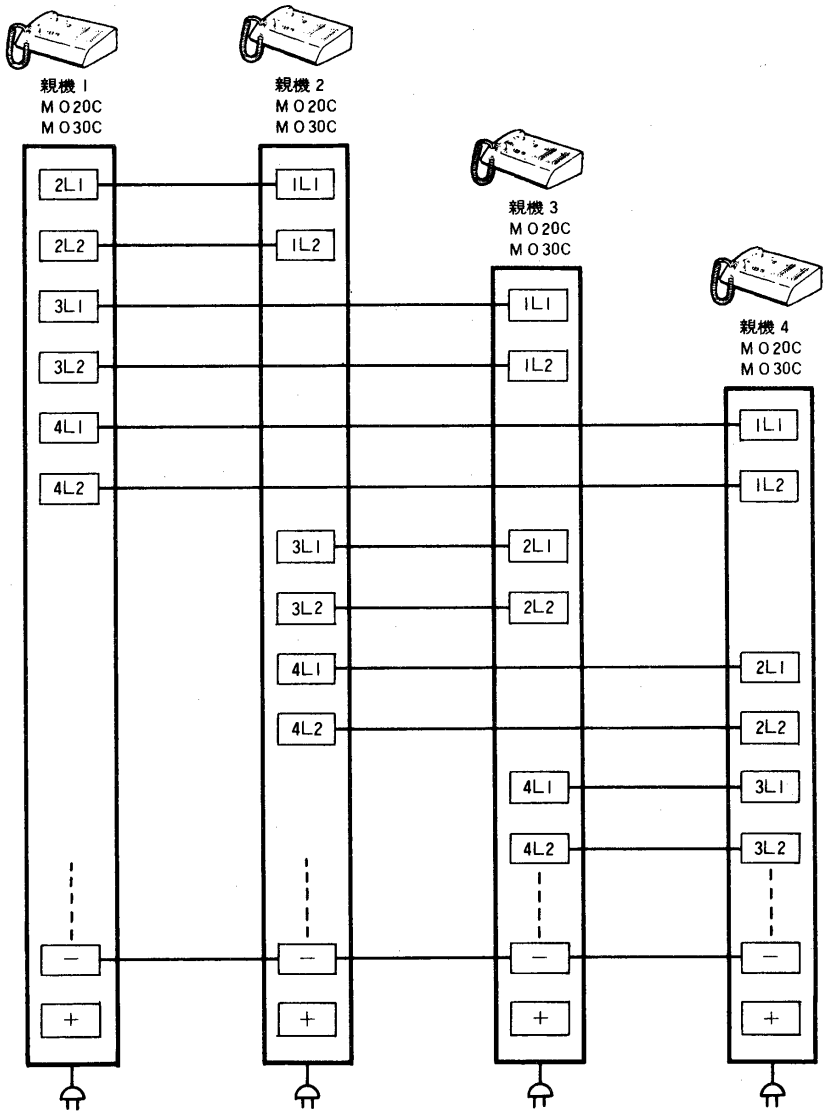
＜生産完了 2004年01月01日＞
MO20C (6/18)

■相互式に接続するとき

● 通話網



● 接続例



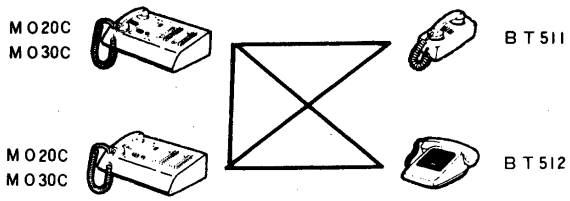
AC100V 50/60Hz

● 親機の端子配列は 4 ページをご覧ください。
● 親機を相互式に接続してご使用のときは、親機の [L1] と [L1]、[L2] と [L2] さらに [−] と [−] を接続してください。
● 配線工事のとき線種の選択、距離については17ページの規格欄をご覧ください。

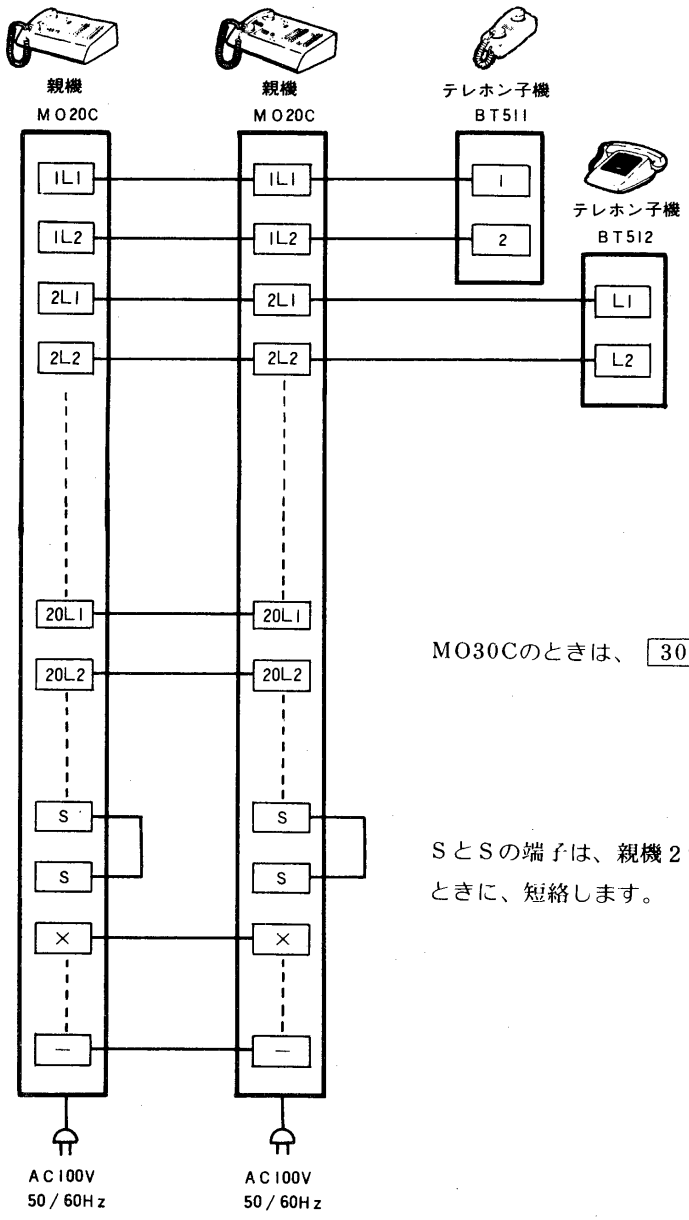
＜生産完了 2004年01月01日＞
MO20C (7/18)

■親子式で親機を２台並列に接続するとき

● 通話網



● 接続例



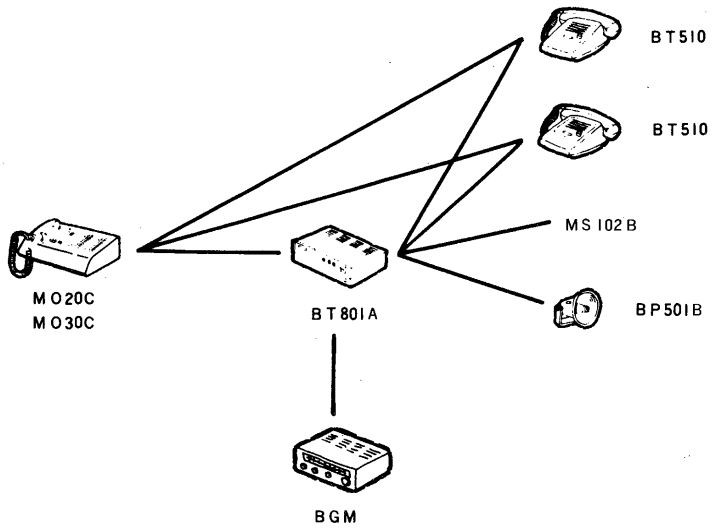
MO30Cのときは、 30L1 30L2 となります。

SとSの端子は、親機２台並列で親機間の通話が必要なときに、短絡します。

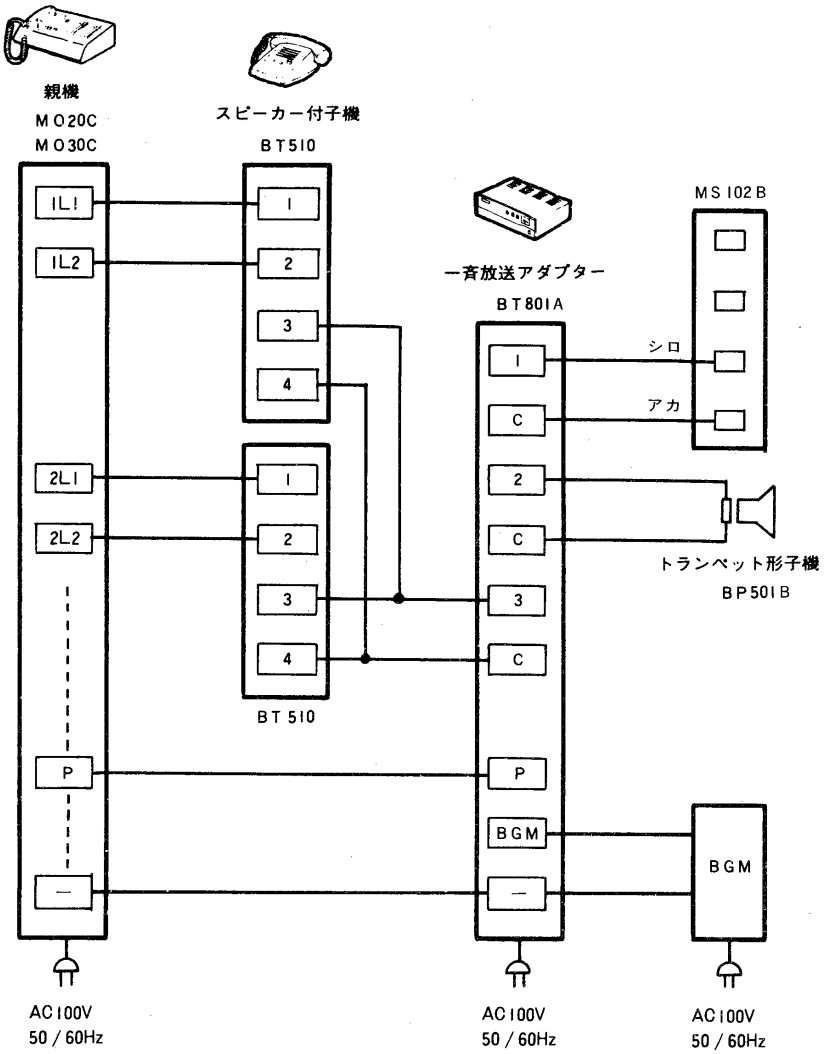
- 親機の端子配列は４ページをご覧ください。
- 子機に親機を並列に接続してご使用のときは（子機から２台の親機を同時に呼び出せます）子機の 1 または L1 を両方の親機のL1に、子機の 2 、または L2 を両方の親機のL2に接続します。並列に配線できる親機の台数は２台までです。
- 図の親機端子 20L1 と 20L1 （MO30Cのときは 30L1 と 30L2 ）、 20L2 と 20L2 （MO30Cのときは 30L2 と 30L1 ）の配線は親機どおしの呼び出しと通話用の配線です。
- 20L1 、 20L2 （MO30Cのときは 30L1 、 30L2 ）に子機を接続して、使用するときは S 、 S の短絡線をはずしてください。
- × と × 、および — と — を接続します。
- 配線工事のとき線種の選択、距離については17ページの規格欄をご覧ください。

■一斉放送アダプターを接続するとき

●通話網



●接続例

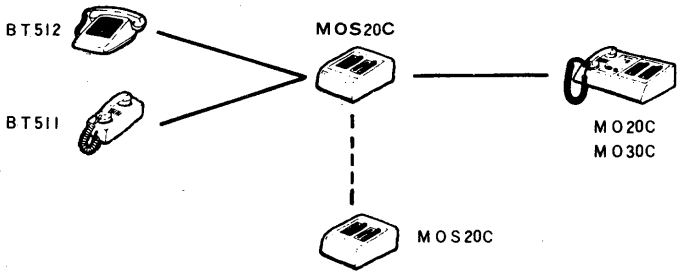


- ●親機の端子配列は4ページをご覧ください。
- ●一斉放送アダプターの接続方法は一斉放送アダプター（BT801A）の取扱説明書をご覧ください。
- ●一斉放送アダプターに接続できる機器の台数は、
  BT510、MS102Bのときは1系統最大20台で3系統　合計60台です。
  BP501のときは1系統最大4台で3系統　合計12台です。
- ●配線工事のとき線種の選択、距離については17ページの規格欄をご覧ください

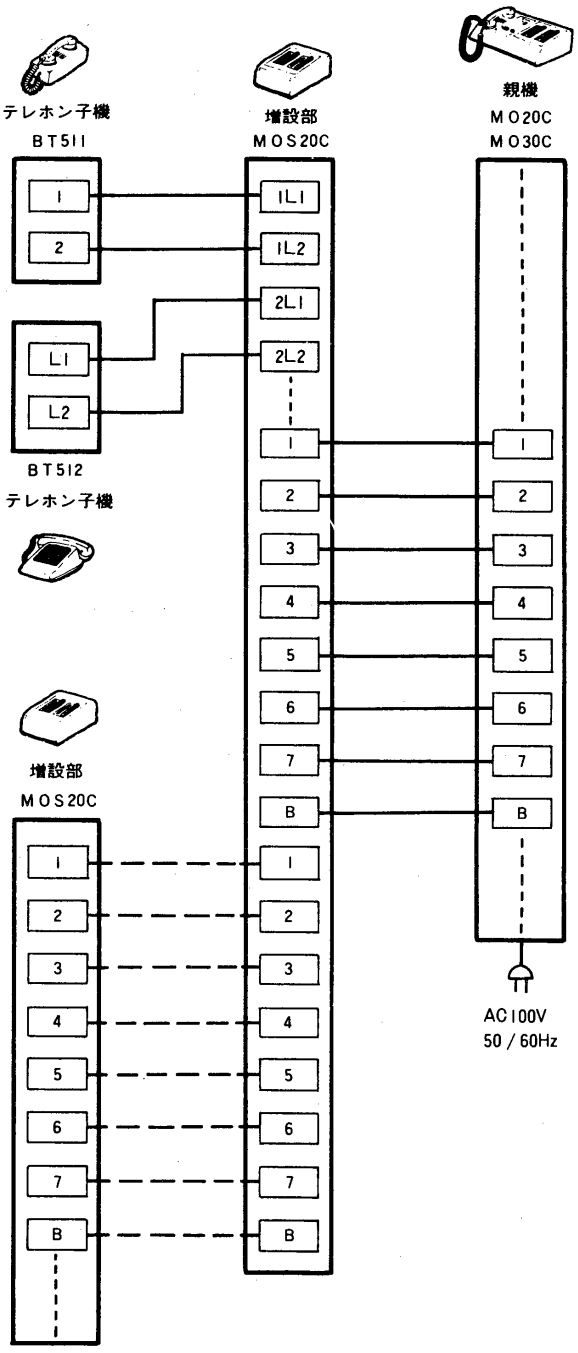
＜生産完了 2004年01月01日＞
MO20C (9/18)

■増設部を接続するとき

● 通話網



● 接続例



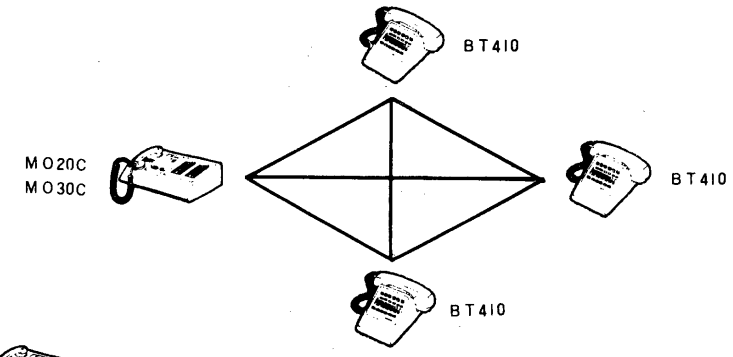
● 親機の端子配列は 4 ページをご覧ください。
● 20局増設部は上図のように接続してください。
● さらに20局増設部を増設するときは同じ要領で接続してください。
● 配線工事のとき線種の選択距離については17ページの規格欄をご覧ください。

<生産完了 2004年01月01日>
MO20C (10 / 18)

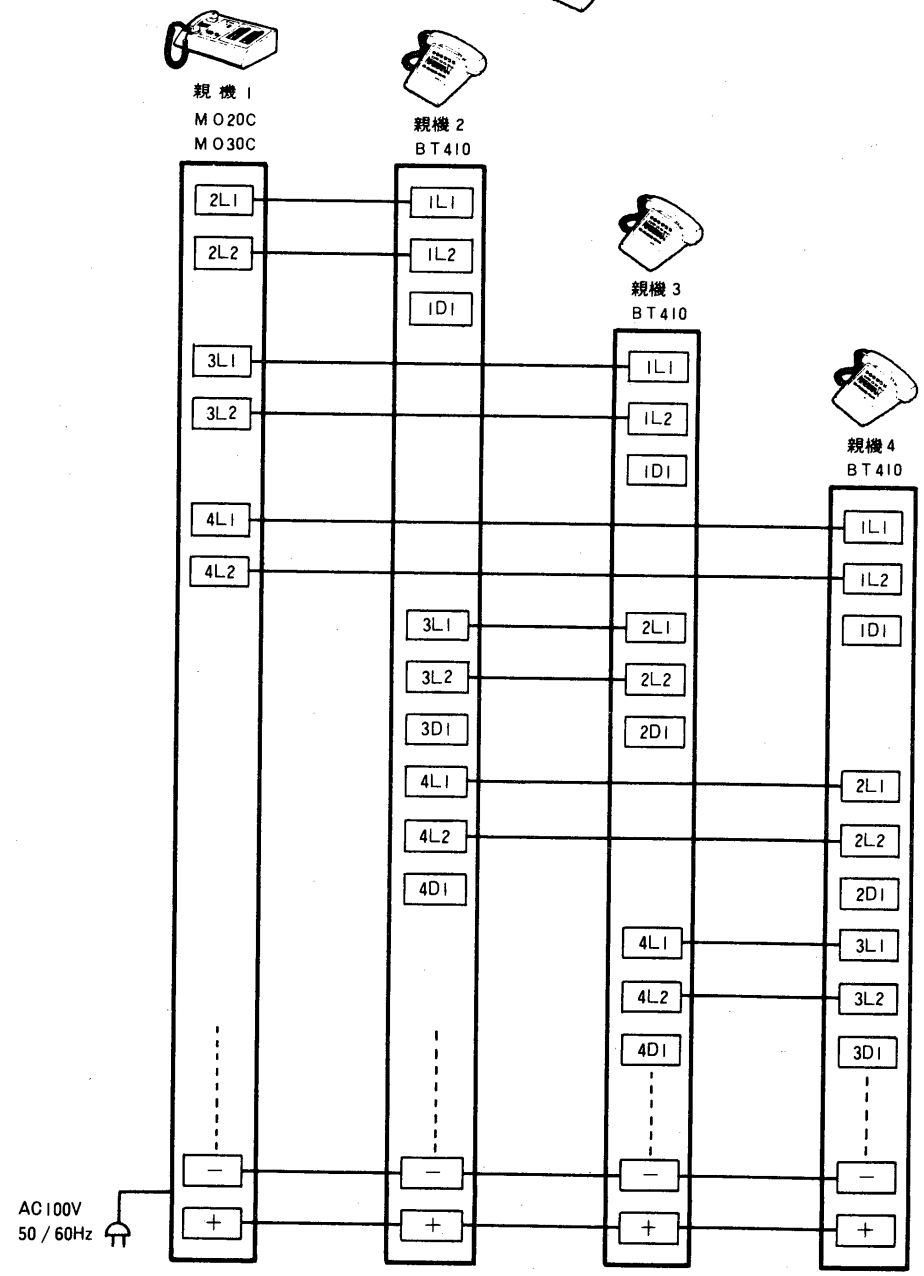
■システムテレホン10局用親機(BT410)を接続するとき

●通話網

相互式



●接続例



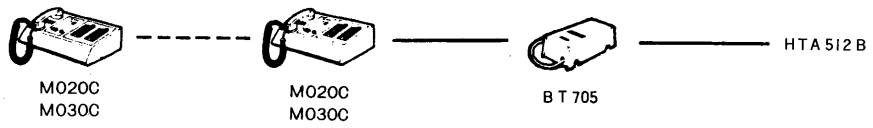
- 親機の端子配列は4ページをご覧ください。
- システムテレホン10局用親機（BT410）を相互式に接続してご使用のときは、親機の L1 と L1 、L2 と L2 、さらに ＋ と ＋ 、 − と − を接続してください。
- 配線工事のとき線種の選択、距離については17ページの規格欄をご覧ください。

＜生産完了 2004年01月01日＞
MO20C (11 / 18)

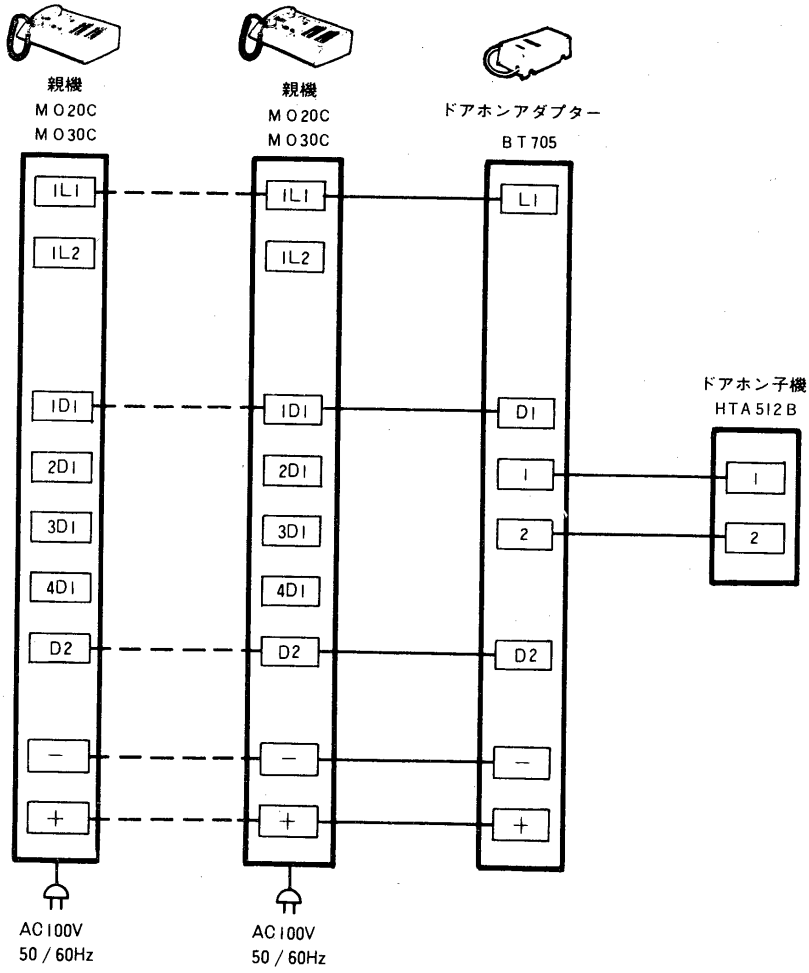
■ドアホン子機（HT512A）を接続するとき

ドアホン子機と通話するときは、ドアホンアダプター（BT705）を使用します。

●通話網



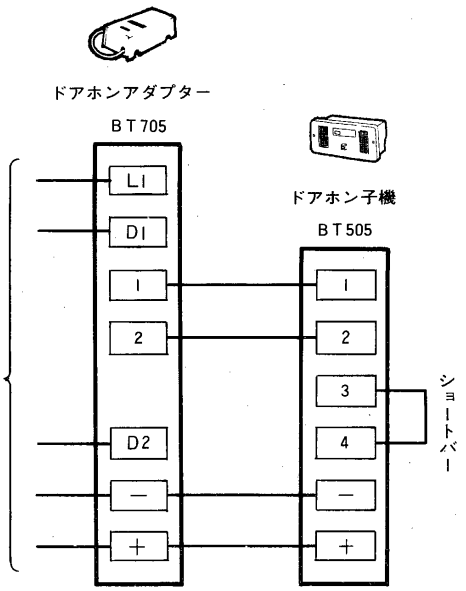
●接続例



- 親機の端子配列は 4 ページをご覧ください。
- ドアホンアダプター（BT705）を接続するときは [L1] を親機の [1L1]、～ [3L1]、に接続してください。
- 親機の [L1] とドアホンアダプターの [L1] に、親機の [D1] とドアホンアダプターの [D1] に、親機の [D2] とドアホンアダプターの [D2] に、さらに [+] と [+]、[−] と [−] を接続してください。
- 親機を並列に接続してご使用のときは、上図点線（……）のように親機間で接続してください。なお並列に接続できる親機の台数は 2 台までです。
- 配線工事のとき線種の選択、距離については17ページの規格欄をご覧ください。

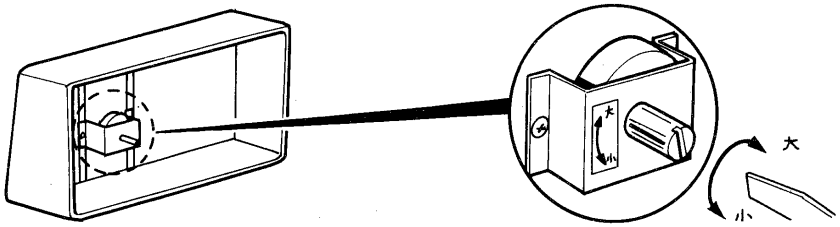
＜生産完了 2004年01月01日＞
MO20C (12 / 18)

●BT505をご使用のとき



呼出音量の調整

●子機から呼出されたときの呼出音量は、上ぶたを開けて内部についている呼出音調整器をまわして、適当な位置に合せてください。



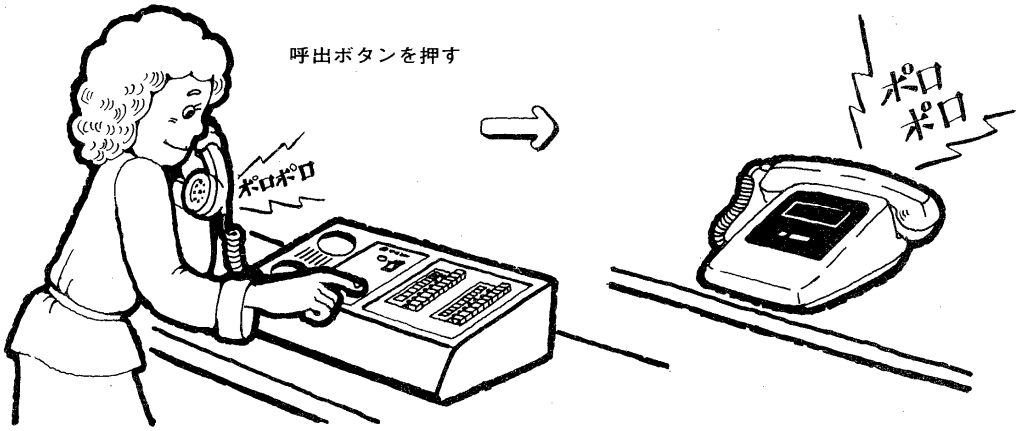
使いかた

■親機から子機を呼び出して通話するとき

①親機から子機を呼出音で呼び出すとき

●親機の送受器をとりあげて相手先の選局ボタンを押し、次に呼出ボタンを押しますと相手に呼出音が鳴ります。
親機の受話口から子機を呼び出している呼出音（ポロポロ）が小さく聞えます。

●子機が送受器をとりあげるとその呼出音が止まりますので、親機の呼出ボタンから指を離して送話口でお話してください。

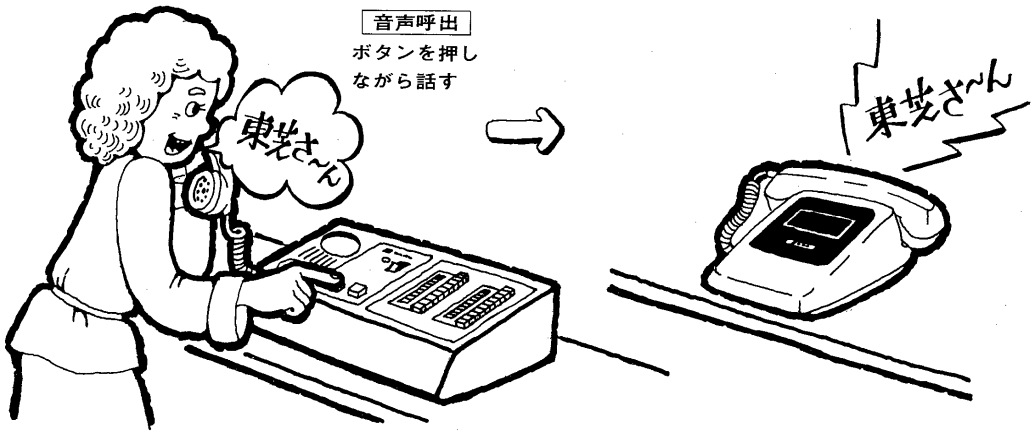


＜生産完了 2004年01月01日＞
MO20C (13 / 18)

②親機から子機を音声で呼び出すとき

●親機の送受器をとりあげて相手先の選局ボタンを押し、次に 音声呼出 ボタンを押しながら送受器で話しますと、相手の送受器から音声が出て相手を呼び出せます。

●音声呼出 ボタンから指を離して相手の応答を待ってお話しください。
音声呼出 ボタンを押している間は相手との通話はできません。



■子機から親機を呼び出して通話するとき

●子機の送受器をとりあげると親機から呼出音が鳴ります。そのとき子機の受話口から呼出音(ポロポロ)が小さく聞えます。

●親機が送受器をとりあげると呼出音が止まります。

●親機は呼出先表示ランプが点灯しているところの選局ボタンを押してから通話してください。

■親機から別の親機を呼び出して通話するとき

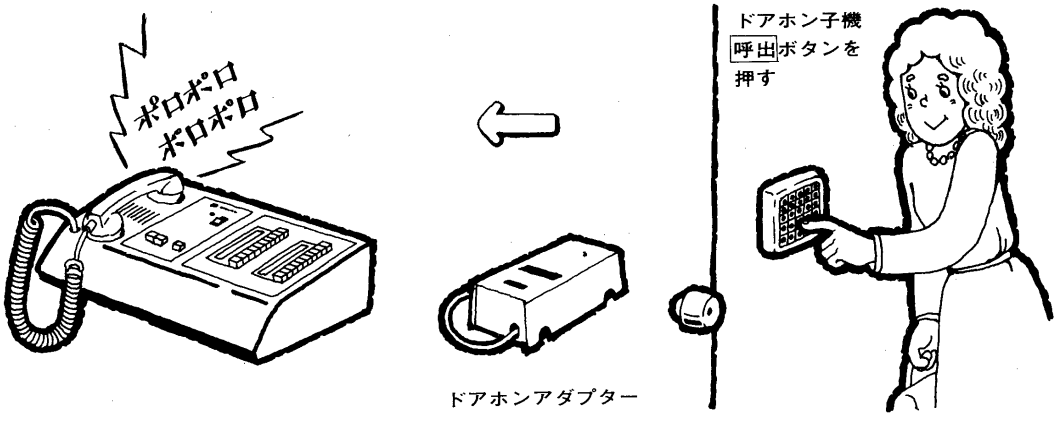
●親機の送受器をとりあげ呼び出す親機の選局ボタンを押し、次に 呼出 ボタンを押しますと相手の親機から呼出音が鳴ります。 呼出 ボタンから指を離しても相手の呼出音は鳴り続け、親機の受話口から相手を呼び出している呼出音が聞えます。

●呼び出された相手の親機は送受器をとりあげ、呼出先表示ランプが点灯しているところの選局ボタンを押してから通話してください。

●親機から相手の親機を音声で呼び出すことはできません。

■ドアホン子機から親機を呼び出して通話するとき

●ドアホン子機の 呼出 ボタンを押しますとドアホン子機に接続されている親機の呼出音が断続して鳴ります。呼出音は、ドアホン子機の 呼出 ボタンから指を離しても約５秒間鳴り続けます。



●親機は送受器をとりあげて呼出先表示ランプが点滅しているところの選局ボタンを押しますとドアホン子機と通話がてきます。

＜生産完了 2004年01月01日＞
MO20C (14 / 18)

■子機またはドアホン子機に親機を2台並列に接続したとき

- 子機またはドアホン子機が呼び出すと、2台の親機の呼出音が鳴ります。
- どちらかの親機が応答して通話に入りますと、もう一方の親機の呼出音が止まります。
- どちらかの親機が通話中、もう一方の親機のその局の呼出先表示ランプが点灯しています。
- 先に応答した親機が子機と通話中に、もう一方の親機が送受器をとりあげて呼出先表示ランプが点灯している局の選局ボタンを押せば、いっしょに通話ができます。しかし相手がドアホン子機のときは、ドアホン子機の話しは聞こえますが、親機の話しはドアホン子機に聞こえません。

■通話中に呼び出しを受けたとき

- 通話中に呼び出しを受けますと、呼出先表示ランプが点灯し、呼び出されていることがわかります。そのところのボタンを押すといっしょに通話ができます。

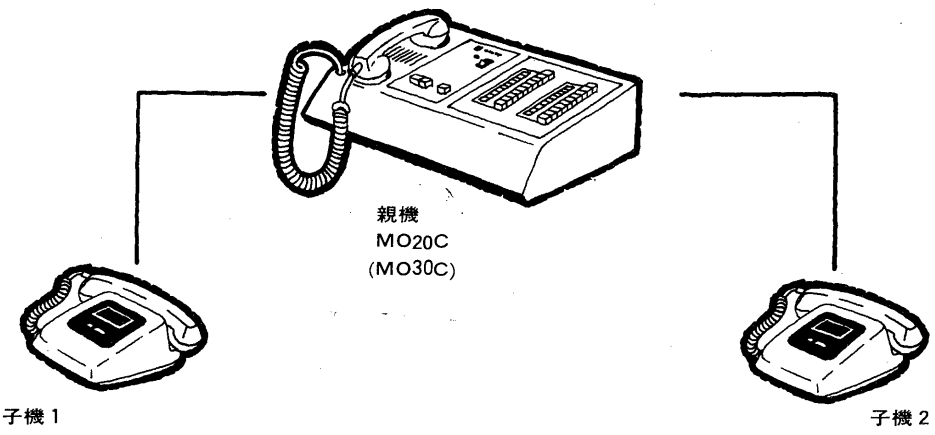
■中継のしかた

- 親機は中継の依頼をうけましたら、中継の依頼をうけた相手の選局ボタンをいったんもとに戻します。
  次に中継先の相手の選局ボタンを押してから 呼出 ボタンを押してください。

  (ご注意)
  中継の依頼をうけた相手を選局したままで中継先を呼び出しますと、中継先の相手が通話中でも、相手を呼び出している呼出音が、自分と中継を依頼した相手に聞こえることがあります。必ずいったん中継を依頼した相手の選局ボタンをもとに戻してから中継先を呼び出してください。
- 相手から応答がありましたら中継の依頼のあったことを伝え、次に中継の依頼をうけた相手を選局してから送受器を掛けます。

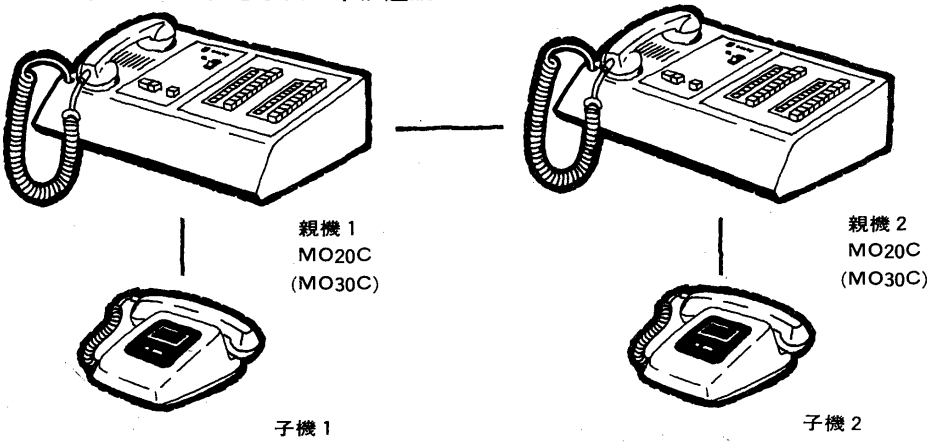
  (ご注意)
  このとき親機の選局ボタンをもとに戻しますと中継通話ができなくなりますのでご注意ください。

①同じグループの子機と子機の中継通話



手　順
①子機1が親機を呼び出し中継を依頼します。子機は送受器をあげたまま待ちます。
②親機は「中継のしかた」の手順により子機2を呼び出します。
③子機2から応答がありましたら親機は子機1を選局して送受器を掛けます。

■2台の親機を中継した子機と子機の中継通話



<生産完了 2004年01月01日>
MO20C (15 / 18)

①子機１は親機１を呼び出し、中継を依頼します。子機１は送受器をあげたまま待ちます。
②親機１は「中継のしかた」の手順により親機２を呼び出します。親機２から応答がありましたら子機１を選局して送受器を掛けます。
③親機２は「中継のしかた」の手順により子機２を呼び出します。子機２から応答がありましたら子機１を選局して送受器を掛けます。
●中継通話を終えて子機の両者が送受器をもとにもどすと、親機から「ピー」という音が鳴ります。中継通話が終わった合図です。親機は選局ボタンをもとにもどしてください。「ピー」という音が止まります。

■通話が終わったら

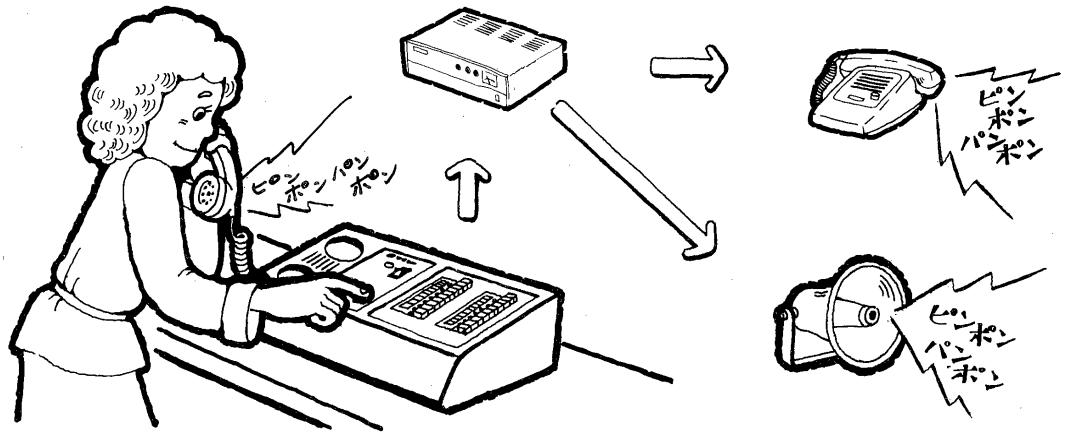
●子機は送受器をもとのように掛けます。
●親機は選局ボタンをもう一度押して、もとにもどしてから送受器を掛けます。
選局したままで送受器を掛けますと、相手が送受器を掛けたとき「ピー」という音が鳴ります。それが選局ボタンをもどし忘れた合図ですから、そのときは選局ボタンを押してもとにもどしてください。「ピー」という音が止まります。

■一斉放送をするとき

●親機より放送するとき
親機の 一斉放送 ボタンを押しますと、チャイム音が送受器に小さく聞こえます。同時に子機からも放送予告音としてチャイム音が出ます。チャイム音が鳴り終わりましたら 一斉放送 ボタンから指を離して親機の送話口に話しますとBT801Aに接続してあるすべての子機から音声が出ます。

●ボタンインターホンから放送をするとき
接続した一斉放送アダプターに対応した選局ボタンを２つ押して選局し、つぎに 呼出 ボタンを押しますと、受話口からチャイム音が聞えます。鳴り終わりましたら 呼出 ボタンから指を離してお話しください。

●ある親機が放送中に、他の親機から放送することはできません。



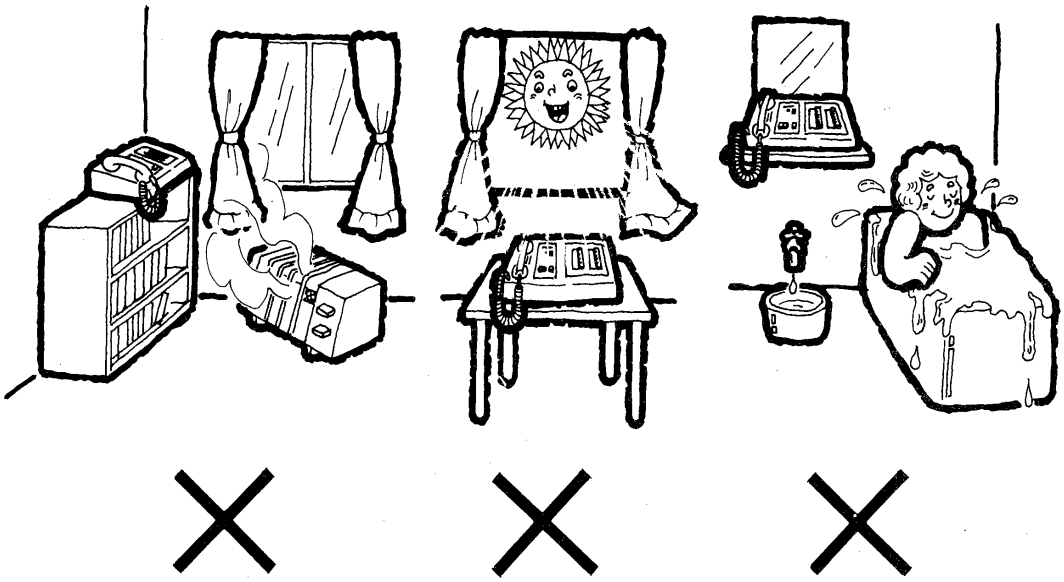
●一斉放送アダプターにＢＧＭ装置を接続してご使用のとき
それぞれの子機にＢＧＭ放送が聞えていますが、親機が 一斉放送 ボタンを押すとＢＧＭ放送は切れて優先的に一斉放送ができます。

＜生産完了 2004年01月01日＞
MO20C (16 / 18)

ご注意とお願い

このインターホンは、屋内専用で−10℃～＋50℃の範囲で使用するように設計してあります。つぎの場所には取り付けないでください。

- 暖房器具の真上やその付近。
- 直射日光のあたるところ。
- 製氷倉庫など−10℃以下になるところ。
- 浴室など特に湿度の高いところ。
- 有害ガスやいろいろなほこりが特に多いところ。
- 水や薬品がかかるおそれのあるところ。



お手入れのしかた

- 本体や送受器はやわらかな布で、からぶきしてください。
- 汚れがひどいときはシリコンワックスか石けん水を浸した布をよくしぼってからふいてください。
- 機器をいためますのでガソリン・ベンジン・シンナーなどの薬品でふかないでください。

修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、電源プラグをコンセントから抜いて、お取り付けの工事店か、お近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。
なお、ご相談されるときは、形名（MO20C、MO30C）をお忘れなくお知らせください。

★修理を依頼される前に、つぎの点についてお調べください。

■呼び出しも通話もできないとき

- 親機の電源プラグがコンセントから抜けていたり、接触が悪くなっていませんか。

■呼出音が鳴らないとき

- 送受器がはずれていませんか。
- 送受器が正しく掛けてありますか。

＜生産完了 2004年01月01日＞
MO20C (17 / 18)

特　長

- 親機は呼び出されたとき呼出先表示ランプが点灯し、どこから呼び出されているかがわかります。
- 親機から子機へはボタン操作により、呼出音のほかに音声で呼び出すことができます。
- 親機は２台まで並列に接続することができ、子機からの呼び出しをどちらの親機からでも応答できます。また親機どうしの通話もできます。
- 親機と子機の通話のほかに親機と子機で構成されるグループどうしが通話できます。
- 個別通話式ですからほかの子機に話しを聞かれることはありません。
- 子機は送受器をとりあげるだけで親機を呼び出すことができます。
- 親機と子機の配線は２線式ですから配線工事が簡単です。
- 一斉放送アダプターを接続しますと一斉放送ができます。
- 親機はドアホンアダプター（ＢＴ705）を用いてドアホン子機（ＨＴ512Ａ）と通話できます。

仕　様

- **通話網方式**　複合式
- **通話網**　電話形同時通話
- **電　源**　AC100　50／60Hz
- **消費電力**　待受時　3W
  最大時　11W
- **呼出音**　トレモロ音および音声（親→子）
- **被呼出音**　トレモロ音および発光ダイオード
- **終話音**　ブザー音
- **選　局　数**　ＭＯ20Ｃは20（ドアホン子機の選局数３を含む）
  ＭＯ30Ｃは30（ドアホン子機の選局数３を含む）
- **配　線　本　数**　親機－子機間　各子機につき２線
  親機間　３線　１線＋２線
  親機－ドアホンアダプター間　５線
  並列親機間　２線＋１局につき２線
  親機－一斉放送アダプター間　２線
- **通　達　距　離**

線　種	公称断面積	0.2mm²	0.3mm²	0.5mm²	0.75mm²	1.25mm²
	（本／mm）より線	7／0.18	12／0.18	20／0.18	30／0.18	50／0.18
	（mm）単心線	0.5	0.65	0.8	1.2	1.8
距離（メートル）最大	親機－子機間（子機１台）	100	150	200	300	450
	親機－子機間（子機３台）	25	35	50	80	100
	親機間	100	150	200	300	450
	親機－一斉放送アダプター間	100	150	200	300	450
	親機－ドアホンアダプター間	150	250	400	600	800
	ドアホン子機－アダプター間	100	150	250	400	550

- **設　置　形　式**　卓上・壁掛兼用形（別売りの壁掛金具MK20C使用）
- **設　置　場　所**　屋内専用
- **使用周囲温度**　－10℃～＋50℃
- **重　　量**　ＭＯ20Ｃ　4.3kg　　ＭＯ30Ｃ　4.5kg
- **外　観　色　調**　ケース　明るい灰黄（マンセル５Ｙ　8.7／0.2）
- **外　観　材　質**　ケース　プラスチック（ＡＢＳ樹脂）
  底ぶた　鉄板（亜鉛クロメートメッキ）

東芝ライテック株式会社

照明電材事業部

〒140　東京都品川区南品川２－２－13（南品川ＪＮビル）
ＴＥＬ　(03)5463－8777

(08530)Ｃ
＜生産完了 2004年01月01日＞
ＭＯ20Ｃ（18／18）